

400号記念特集号

小須戸公民館報

発行所 小須戸町公民館
 発行人 成田常信
 発行日 毎月15日
 印刷所 旬昭栄堂印刷所



(写真提供/本町1 風間源一郎)

新しい年度にあたり 情報センターとしての公民館

中央公民館長 成田常信



春、四月に入りました。寒さなかなか去りきらずに来た今年の春ですが、物動き出すこの頃ともなれば、春耕の準備、事業発展への計画、又は多くのご家庭では入学・進学・就職等々と希望の多い春をお迎えのことと思います。

さて、昭和六十三年度の新しい時を迎え、公民館は分館ともども町民の皆様のご協力により今年度の事業計画実現のための精一杯の努力を重ねるつもりです。

町民の皆様からは日頃ご支援ご援助をいただき、厚くお礼を申し上げます。今年も旧年に倍してのご指導を賜りますようお願いいたします。

さて、公民館活動は町民の方方によって作り上げられるものです。町民の皆様が公民館に集まり、自らの意志で学び、研修に励み又芸術文化の行事に参加し、更には地域の諸問題について語り合っていたくならば、地域の連帯感も深まり、住民の自治は自ずと向上するものと考えます。公民館活動の究極的目的がここにあります。

次に今年度、新しい試みとして開設した教室の主旨についてお知らせいたします。

まずは初心者のための写真教室と社交ダンス教室を開級します。この二つの教室は今まで公民館の教室で学んだ人達が、こんどは、その学んだものを自分達が講師になり、始めから終りまで、初心者の方々にお教え

し、それでは「ホトギス」に替えてみよう。昔どこの名將が、うたった句を思い出した。「なかなぬなら なかせてみよう」といふと、うまくなるかな。我れ駄名將、うまくなるかな。本当の「ホトギス」が渡来するまでなんとか鳴かせてみたいものだ。お宅の名將はいかかな?



勝さん 鎌渡 兼渡

ちょこっと一言 (1)

「おはよう。」「おはよう。ございませう。胸のすくような返事が返って来た。翌朝「おはよう。ございませう。子供達に先をこされてしまった。残念。でも子供達から素晴らしい贈り物ももらった。それにしても我が家では、歌を忘れた「カナリヤ」が多い。よ

ふれあい

趣味が興じて自分の仕事に 齊藤登市さん

自分の趣味を職業としてできるならば、難儀であるけれども技術や才能を生かす事では大変有意義ではないだろうか。しかしそうは思っても趣味を職業とするには勇気がいる。齊藤登市さん(本町四、四十八歳)は、写真が興じてカメラ屋を開業して今年でちょうど十年になる。

「中学の時に友人が親父のカメラをいじってね。それを見てたら興味わいてきたんさ。たしか中三の時に「スタート35」というカメラを親父に買ってもらった。以来やみつきらね。」

し、お世話をしようというものです。

自分達が学んだものを地域の皆様に戻していくこと、学んだものをお分けするという態度、これこそ公民館活動の大きな目標のひとつであります。

このようなことが次々と生まれてくることを期待しております。

次に施設の面で新しく加えられることについてお知らせいたします。

まず正面玄関には車椅子で入館できるようにするために、新しくスロープと自動ドアが設置されます。身障者の方々も、今年から自由に公民館の中に入ることが出来ます。ご集会や、図書室のご利用にとお待ちしております。

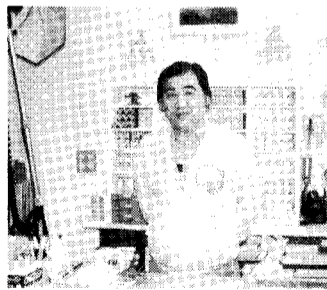
「十年前に体を悪くしてね、勤務できなくなつて、それじゃ趣味を生かそうって思ったんです。県展には六回程、県観光写真コンテストなどの入選は多数。よく自分の好きな事だから気楽でいいねって言われるけどとんでもない。撮り直しのきかない写真なんかあって大変です。趣味の時とは大違い。」

自分の時間が少なく撮影に行きたくても行けないのが悩みとか。「三十年以上写真を撮っていると自分の枠がでちやうと納得いく作品が出来ないですね。」

小須戸町写真クラブに所属。公民館の写真教室でも活躍を期待したい。

「新潟で写真の修業中の息子が、もし、家業を継いでくれたらば初心にかえつてのんびり写真を撮りまくりたいね。」

写真一筋三十余年。意欲とがんばりがあってこそできる事だ。



齊藤登市さん

又、長年の念願であった公民館車庫が、六月頃にライオンズクラブと町当局のご好意により配車されることになっていいます。そうなればどんなにか公民館活動がスムーズになり、活気が出てくることでしょう。

又、もうひとつの事業として年四回の情報紙を発行いたします。これは町内の事については勿論、スポーツの結果や、県内、近郷等で催される展覧会、諸行事、講演会、講習会等、中央公民館で知りえた情報をできるだけ早くお知らせをして、皆様のご利用に供するものです。

これからの公民館は情報のセンターでなければならぬと言われております。まず今年をスタートとして、小規模の紙面を出発し、年々改良していくつもりです。

ご批判、ご協力をお願いいたします。

次に主催事業の計画についてこれらの事業が成功するために皆様のご援助・ご指導を切にお願いいたします。

- ▼各種初心者教室を開級
 - 仲間づくりと余暇の充実を計っていただくために、各種初心者教室を開級します。
 - ・拓本教室
 - ・書道教室
 - ・日本画教室
 - ・写真教室
 - ・社交ダンス教室
- ▼継続講座、教室を実施
 - 昨年度と同様に教養講座、趣味講座を継続していきます。
 - ・小須戸町史を読む会
 - ・成人大学講座古典講座
 - ・俳句教室
 - ・幼児家庭教育学級
- ▼情報センターとして
 - 幅広く情報の提供に努めるため新事業を実施します。
 - ・情報紙を年四回発行、様々な情報提供に努めます。
 - ・指導者バンクの設置、多目的に人材を活用する為に町内を含めた指導者を登録し利用を計ります。
 - ・公民館報の定期発行
- ▼その他の事業
 - 文化祭、芸能祭、文化講演会
 - 図書活動、婦人研修会、視聴覚活動、16mm操作認定講習会 他

催し物案内 植木・盆栽まつり 5月3日・4日・5日 会場：ウデコキ地内/花木センター

した。公民館報400号 親しまれる広報へ

記念座談会 館報アンケート結果

四百号記念特集座談会

これからの公民館報に期待する

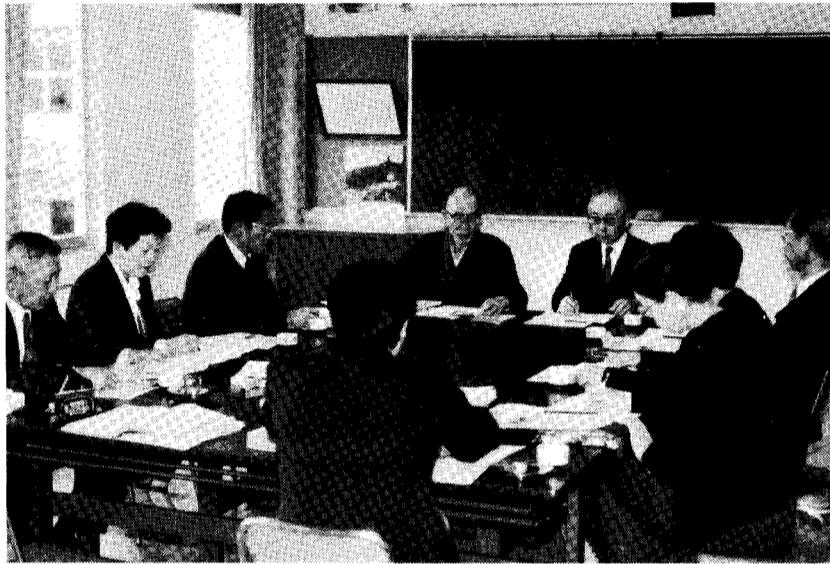
ハラエテイイな内容と、住民参加の広報へ

私達の広報紙である公民館報について新しい記録が生まれま
した。昭和24年10月1日に第一号が発行されて以来、途中数年
間隔月発行になりながらも約39年間という長い年月をかけ、公
民館報が、記念すべき四百号を迎えることができました。
これもひとえに町民のみなさんに愛読いただいたおかげと
感謝申し上げます。今後とも親しみやすく、読みやすい広報紙
を目指して編集にあたりたいと考えています。町民のみなさん
の一層のご支援をよろしくお願いいたします。

他町村に先がけて 発行された公民館報

司会 私達の公民館報がついに
四百号を迎えることができました。
今日は、それを記念して、
「これからの公民館報に期待す
る」と題して座談会を進めさせ
て頂きます。四百号に至るまで
はいろいろ苦労があったことと
思いますが、まず発行当時をふ
りかえってお話をお聞かせ下
さい。

間野 そうですね、第一号は、
昭和二十四年十月一日に発行さ
れました。当時は、戦後という
ことで町づくり運動が盛んに行
なわれていましたね。特に公民
館は町の中心地、茶の間として
ね。住民の声が集まってしま
した。館報は、そういう町民のニ
ーズに応えた形で発行されまし
た。公民館報の発行は小須戸が
草分けでしたよ。県の社会教育
課からも一目おかれ、スタッフ
の皆さんもとても熱心でした。
当時は我々の手で町づくりを
やるんだという情熱に燃えてい
たので、町長はじめ行政関係の
人も住民の立場でスタッフに入
っていましたよ。
司会 大変苦労されたというお



座談会風景

全に分かれた姿が本来の形でし
ようね。
**公民館報はどんなふう
に読まれているか。**
司会 今回初めて公民館報がど
のように読まれているのか、ア
ンケートをとってみました。
この結果について少し考えて
みたいと思いますので御意見を
お願い致します。(別表参照)
広瀬 公民館に直接足を運ばな
くとも情報が得られるので、催
し物などに目がいけますね。
岡 やはり公民館報は情報紙と
して受けとめられる面が大きい
んでしょうが、文化面について
の充実が望まれますね。ふるさ
と散歩、文芸欄など、いわゆる



広瀬春美さん



白井 晃さん



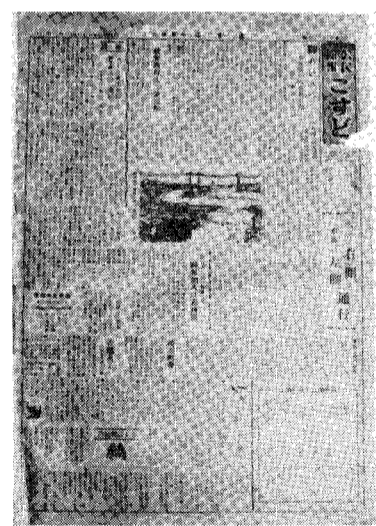
加藤洋子さん



吉田幸子さん



池田忠夫さん



公民館報創刊号
(昭和24年10月1日発行)

よりよい公民館報を
めざして
司会 アンケートの結果なども
考えて、よりよい公民館報づく
りをめざしたいと思えますが、
今後の公民館報に望む内容をお
聞かせ下さい。
岡 現在のようないわゆる時代に望
まれるものは、心の豊かさを求
めること、生涯教育を中心とし
た芸術文化の分野だと思いま
す。そういう内容を出来るだけ
盛るようになりたいですね。
広瀬 そうですね。心の教育が

教養・趣味欄にも読ませる工夫
が大切でしょう。
白井 このアンケート結果は何
となくわかる気がしますね。公
民館がどんな行事をやっている
かということが興味を示してい
ることがわかるね。トップ記事
には苦労するんだけどその割に
は読まれていないで残念です
加藤 作る方は一生懸命だが、
読む方は雑なんですね。読む方
の意見などを載せるのもいいの
ではないでしょうか。
吉田 身近な内容が載ってい
ると興味を持つから、編集委員
が出前記者みたいになってそう
いう記事を集めるのもいいんじ
やないですか。
白井 より多くの人が登場する
というのがいいですね。例えば
「子供クイズ」とか。
間野 読む方は、自分の要求で
勝手に読んでるわけだが、八
十パーセントも読まれてると
いうことはすばらしいことです
よ。回収率が少し低いのでこの

座談会出席者	
間野 良知 (新保三、元公民館長、元文化協会会長)	
岡 謙吾 (若葉町一、小須戸分館長)	
村山 祐一 (矢代田七、小須戸町収入役)	
吉田 幸子 (本町一)	
広瀬 春美 (天ヶ沢一)	
加藤 洋子 (うでこき三)	
白井 晃 (横川浜、元中央公民館主事)	
池田 忠夫 (横川浜、編集委員長)	
成田 常信 (中央公民館長)	
司会 水沢喜代志 (中央公民館主事)	

数字をうのみすることはでき
ないが、読ませる館報より見せる
館報へということが今後の課題
でしょうね。
村山 現在の館報は、公民館活
動に沿った内容は充分載せられ
役割も果たしていると思います
ね。私は、アンケートの「公民
館報に望む内容」については想
像どおりですね。最近では社会形
態(お年寄りの層がふえている)
や産業構造(農業のような第
一次産業がどんどんへっている)
ずいぶん変化してきているので、
当然休日や余暇の時間帯も変動
してきている中で、公民館活動
を行うには非常に制約されます
ね。そういう意味で、広報の持
つ役割はますます大切になる
と思われまます。
池田 形を「町だより」と同じ
大きさという要望があります
が、この意見はどうでしょうね。
司会 編集側サイドから一言意
見を言わせてもらいますが、私
は、この形にこだわっていきな
いんです。なぜなら、公民館報
と町だよりは性格がちがうん
だということ、はっきり形
表したいと思っんです。町の広
報と合併されるのを防いで、や
はり社会教育紙として独立して
いかせたいと思っんです。
白井 そうだね。町だよりの中
の一ページが公民館用なんてい
う話もあったけど、頑張ってこ
の形で残してきたんですよ。
成田 町だよりの形にするって、
記事量も減るんですね。量が減
ると、内容も片寄らざるを得な
いので、やっぱり今の形でやっ
てきたのですが、。量のことを
言えば、公民館では、六十三年
度に年四回、情報専門の広報を
発行することになりました。月
一回発行されている現在の館報
以外にです。だから館報の情報
欄には影響が出るかも知れませ
んね。
加藤 アンケートによると、催
し物(案内)が一番読まれている
ので、今後、読みにくくなると
いう心配はないでしょうか。
白井 でも、一年ぐらい、試行
錯誤があってもいいんじゃない
ですか。マンネリを打破するこ
う意味からも、かえって社会
教育の拠点である公民館の役割
りそのものを広く町民にアピ
ルする館報になれるんじゃない
ですか。

特集

新しい記録が生まれます ～みなさんに読まれ、



成田中央公民館長



岡 謙吾さん



間野良知さん



村山祐一さん

あの時どんな記事が書いてあった

～今までの館報記事を見る～

子供の遊び

(創刊号、昭和24年10月1日)

中学校では全校一斉に九月十四日、学校外における生徒の遊びについて調査した結果、次のような統計を得ました。

種目	1年	2年	3年
▲男子	135名	158名	125名
野球	五三	四二	五三
高跳び	四五	三八	〇八
かくれんぼ	四五	三二	〇八
将棋遊び	五二	五七	五六
水泳	〇七	九五	〇〇
その他	一三〇	一三三	一六八

▲女子

種目	1年	2年	3年
いそぎ	二九	六二	一一
お手玉	五六	五三	〇〇
おしゃべり	一一	六五	一一
読書	五九	〇七	〇三
其他	二九	三四	一九

美談 (60号、昭和30年6月10日)

五月十日の午後二時頃のこと、新保地内道路を通行の龍玄新田渡辺清次郎さん偶然前方道路沿いに流れる用水堀端で遊戯中の

欲しいと思います。図書館の利用などはそれにつながると思いますが、図書館の利用の働きかけなんかもいいんじゃないですか。また、山の手地区の子供達も含めた仲間づくりなどに広報がタッチして、地域のふれ合いに努めてほしいと思います。

吉田 アンケートにある要望を積極的に進めたいと思います。健康に関する内容の要望とか、心の豊かさを求めるの要望とかありますが、そういう問題をかかえている人達に集まってもらって、テーマを設けて座談会をやるといいんじゃないですか。

加藤 各地域から集ってらっしゃる身近な話題を提供してらっしゃるのいいのではないのでしょうか。自分の知っている子供とか身近な話題が載っているとやっぱり興味をひかれますよ。心に残る記事が一つでもあるといいですね。

間野 館報に全部目を通す人は数少ないと考えた方がいいですね。まず自分に興味がある部分に目がいき、そのついでに読む

と通して欲しいですね。広瀬 やはり社会教育紙ですので、その性格を大切にしたいと思っています。例えば、お年寄りの昔話とか、生活の知恵などを載せるのもいいんじゃないですか。いろいろな面からの教育という意味もあって。

村山 現在の広報でも七十点以上はとれていると思いますよ。一つの内容を連載で深めていくというのいいと思いますよ。

例えば、健康に関する記事を町のお医者さんから書いてもらったりとか、料理関係の記事を続けるとか、投書欄を設けて、家庭内の出来事をおもしろおかしく書いてもらって連載するのも楽しい

と思います。同字石黒吉一さん次男勝雄ちゃん(当時三才)が誤って用水中へ転落したのを目撃したので、渡辺さんは着衣のまま、堀へ飛び込み、これを助けあげ事なきを得たが人命救助の美しい一コマであった。

原形復旧に約三億 (17号、昭和39年7月15日)

さる六月十六日の午後新潟地区一体をおそった地震は、各地で大きな被害をだしたが、小須戸町でも各所で被害を出した。特に当町では全壊住宅を三戸もだし、土蔵についてはほとんどが被害を受け、使用不能のものも数戸でている。

いすね。地域活動の記事は、あまり簡単だと内容がわからないのでもう少しスペースがあるといいですね。

間野 しかし、要望が多いですね。(笑)これだけの記事を書けるスペースはあるのでも、読ませる広報として大事なことは、ユーモアを折り込むこと

それから、美談・佳話ののがさがないこと、これは喜んで読まれること。そのほかに、親しまれる連載物、読者末端の声を取り上げた投書欄、子供のためのクイズ欄などを設けることもいいですね。

司会 最後にまとめとして、今後の公民館報に期待することを一言づつお願いします。

村山 公民館報は、住民にとっても欠くことのできない広報紙です。みなさんの心のプラスになるような材料を選んでくれることを期待します。また、先程も申しましたように、社会形態や産業構造が刻々と変化してきて

いますので、それに対応して、みなさんが興味を持って目を通す内容を盛って欲しいですね。バラエティーに富んだ中から、心の糧になるような記事を書き加藤 くり返すようですが、地域の人の声を聞いて、地域に密着したわかりやすい広報紙であって欲しいと思います。

吉田 老若男女、一人でも多くの人の声が反映されることを期待します。大変でしょうけどぜひ出前記事を。やわらかい中にも社会教育が生きている、そんな館報であってほしいですね。

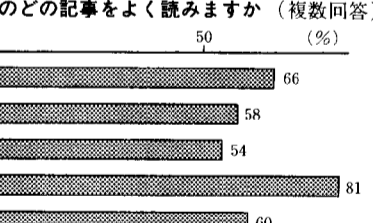
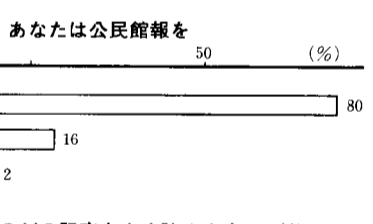
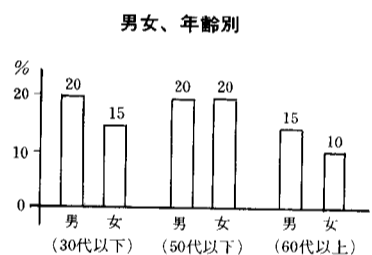
白井 そうですね、チャンコ鍋みたいないろいろなものが入っていいと思うんです。そして、見出しや写真などで味つけをして。ただ、社会教育の広報紙であるという前提だけは絶対に、町民のみなさんの館報に対する熱意と期待に答えるため、親しまれ、読まれる公民館報にしていきたいと考えます。そのためには

読まれ、親しまれる

公民館報にするために

余りにも思われている今日から見れば、用紙も思うように入手できなかった発行当初の苦労話には本当に胸をうたれました。そして、町民のみなさんの館報に対する熱意と期待に答えるため、親しまれ、読まれる公民館報にしていきたいと考えます。そのためには

400号記念
公民館報
アンケート調査結果
昭和63年2月25日～3月10日
回収率 31%



館報への要望をお聞かせ下さい

- 食品添加物等が、どのようにして危険が載せて欲しい
- 内容がマンネリ、これといった興味をひく物が無い気がする
- もつと頁を増やしてほしい
- 形を町広報とすと同じにしてほしい
- 地域の婦人部に呼びかけてほしい
- 地区の親切な話や楽しい事を子供にも読めるように
- 各分館の活動状況をくわしく載せてほしい
- 園芸を載せてほしい
- 地域に密着した記事話題等

今回始めて町民のみなさんを対象として公民館報のアンケートを実施しました。紙面の都合上アンケートの集約結果を全部載せられませんでした。今回アンケートに御協力いただいたみなさんに感謝申し上げます。貴重な資料とご意見として今後の館報編集に利用させていただきます。

